



TITLE:

法令

AUTHOR(S):

---

CITATION:

法令. 經濟論叢 1928, 26(2): 380-382

ISSUE DATE:

1928-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128787>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第

卷六十二第

行發日一月二年三和昭

## 論叢

損益勘定に關する一考察

法學博士

上野道輔

法人重複課稅立法の分析

法學博士

神戸正雄

利潤成立の機構

文學博士

高田保馬

社會黨の農民獲得運動

法學博士

河田嗣郎

長崎貿易に於ける銅及銀の支那輸出に就いて

文學博士

矢野仁一

## 說苑

重農學派の純收入論

法學士

山口正太郎

## 雜錄

Fairplay 誌の批評に應ふ

經濟學博士

小島昌太郎

徳川時代の漁民騷動

經濟學士

黒正巖

紐育倫敦兩資本市場の爭覇

經濟學士

松本佳三

營業收益稅の改正法案

經濟學博士

沙見三郎

## 法令

商工會議所法施行令

# 法 令

## 商工會議所法施行令

勅令第三百七十五號 (昭和二年十二月二十七日)

第一條 商工會議議所ハ商工會所法第十四條第一項ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ一年間ノ營業收益稅、取引所營業稅又ハ鑛業稅ノ地區内ニ於ケル納稅額ヲ標準トシ左ノ制限内ニ於テ定ムル賦課率ニ依リ其ノ經費ヲ賦課スルコトヲ得

- 一 營業收益稅 百分ノ二十五
- 二 取引所營業稅 百分ノ十
- 三 鑛產稅 百分ノ二十

前項ノ納稅額決定以前ニ於テハ其ノ最近ニ決定セラレタル一年間ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅額ト看做ス

第二條 會社ニ對スル經費ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲サザルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス

第三條 商工會議議所ハ商工會議所法第十四條第三項ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル會社ニ對シ拂込資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ金額ヲ標準トシ其ノ百分ノ一以内ニ於テ定ムル賦課率ニ依リ其ノ經費ヲ賦課スルコトヲ得但シ商工會議所ノ

地區外ニモ營業場ヲ有スル會社ニ付テハ別ニ命令ノ定ムル方法ニ依リ地區内ニ於ケル經費賦課ノ標準ト爲スベキ金額ヲ算出シ經費ヲ賦課ス

第四條 商工會議所法第十四條第一項ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル會社ニシテ同條第三項ノ規定ニ基ク命令ノ定ムル金額以上ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ヲ有スルモノニ對シテハ第一條ノ規定ニ拘ラズ前條ノ例ニ依リ經費ヲ賦課スルコトヲ妨ゲズ

第五條 商工會議議所ノ經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ商工會議議所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ商工會議議所ハ遲滞ナク議員總會ノ議決ヲ經テ決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スベシ異議ノ申立ニ關シテハ訴訟法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 前條ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ商工會議議所ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七條 商工會議所法第三十八條第一項ノ處分ヲ受ケタ者其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得前項ノ裁決ニ付テハ市町村ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八條 前二條ニ於テ地方長官トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳長官トス

第九條 第一條乃至前條ノ規定ハ商工會議所法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ賦課率ハ第一條、第三條又ハ第四條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第十條 日本商工會議所ハ商工會議所ニ對シ最近其ノ經費賦課ノ標準ト爲シタル一年間ノ納稅額ノ總額ヲ標準トシ其ノ百分ノ一以內ニ於テ定ムル率竝ニ最近其ノ經費賦課ノ標準ト爲シタル拂込資本及財産ヲ目的トスル出資ノ金額ノ總額ヲ標準トシ其ノ二十萬分ノ一以內ニ於テ定ムル率ニ依リ其ノ經費ヲ分賦スルコトヲ得但シ定款ノ定ムル所ニ依リ經費ノ二分ノ一ヲ限り商工會議所ノ前年度ノ豫算額ヲ標準トシ之ヲ分賦スルコトヲ妨グズ

商工會議所以外ノ所屬團體ニ對スル日本商工會議所ノ經費分賦ノ方法ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 前條ノ規定ハ商工會議所法第五十九條ノ規定ニ依リ準用シタル同法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ分賦スル率ハ前條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第十二條 日本商工會議所ノ經費又ハ過意金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ日本商工會議所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ異議ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十三條 前條ノ異議ノ申立ニ關スル決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

#### 附 則

本令ハ商工會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
大正五年勅令第百七十號ハ之ヲ廢止ス

商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ノ經費ハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間商業會議所法ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

前項ノ賦課ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

前二項ノ規定ハ商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所法同法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス

〔參照〕 昭和二年(四月五日公布)法律第四十九號商工會議所法抄録

#### 第十四條第一項及第三項

左ノ條件ヲ具フル者ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ナルコト但シ會社ニ在リテハ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ半額以上及議決權ノ過半數ヲ帝國臣民(帝國法令ニ依リ設立シタル法人ヲ含ム)ニ屬スルモノタルコトヲ要ス

二 商工會議所ノ地區内ニ於テ明續キ二年以上本店、支店

其ノ他ノ營業場ヲ有スルコト

三 自己ノ名ヲ以テ商行爲スヲ業トスル者、取引所又ハ鐵業權者ニシテ商工會議所ノ地區内ニ於テ營業收益稅、取引所營業稅又ハ鐵業稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルコト但シ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ノ納稅額ノ算出方法ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

會社ノ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資方命令ノ定ムル金額以上ナル場合ニ於テハ第一項第三號ノ納稅ニ關スル條件ヲ具ヘザルトキト雖モ第一項ノ選舉權ヲ有ス

### 第三十八條第一項

經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ會頭ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商工會議所ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

第四十八條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得  
前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十六條及第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第五十九條 第五條第一項、第六條乃至第十條、第二十條乃至第二十二條、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條第一項、第三十二條乃至第三十五條、第三十六條第三項、第三十八條第三項、第三十九條、第四十條、第四十二條乃至第四十九條及第五十一條ノ規定ハ日本商工會議所ニ之ヲ準用ス

### 附則第三項

商業會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル商業會議所ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル商工會議所ト看做ス  
大正十五年(三月二十七日公布)法律第十一號營業收益稅法抄錄

### 第十條第二項

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ム 所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

明治二十三年(十月十日公布)法律第百五號訴訟法抄錄  
第五條 訴訟ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ  
訴訟書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

### 第八條第三項

行政廳ニ於テテ省組スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得  
第九條 法律勅令ニ依リ訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス  
其訴訟書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條 訴訟書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得  
郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴訟期限内ニ之ヲ算入セス

第十二條 訴訟ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴訟人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得  
第十三條 訴訟ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條 訴訟ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ  
訴訟書ヲ却下スルトキ亦同シ

大正五年(六月二十七日公布)勅令第百七十號ハ商業會議所ノ經費賦課ニ關スル制限ノ件ナリ